

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	A-169	20-035
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
題名（原題／訳）		
Years of life lost due to the psychosocial consequences of COVID-19 mitigation strategies based on Swiss data スイスのデータに基づく COVID-19 の緩和戦略による心理社会的影響による損失生存年数		
執筆者		
Moser DA, Glaus J, Frangou S, Schechter DS.		
掲載誌		
Psychiatry. 2020 May 29;63(1):e58. doi: 10.1192/j.eurpsy.2020.56.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、COVID-19、うつ病、長寿、心理社会的ストレス		32466820
要 旨		
目的： コロナウイルス（COVID-19）によるパンデミックは、各国に厳しい社会的緩和戦略（自宅待機と屋外での移動制限）の実施を余儀なくさせている。この戦略は、短期的および長期的な死亡率の増加につながる精神衛生上の重大なリスクを伴うが、それらを考慮した既存モデルはない。そこで、本研究は、スイスを例に、制限的な社会的緩和戦略を3ヶ月間実施した場合の損失死亡年数（YLL）に関するモデル予測を行った。		
方法： 本研究はパンデミックに関連し、2020年4月18日までに公表されたYLLをアウトカムとした文献のレビューを行った。国連開発計画の国別分類システムに基づいて、スイスを中心とし、欧州、次いで米国の研究に焦点を当てた。リスク要因は、自殺、うつ病、アルコール使用障害（AUD）、家庭内暴力による幼少期のトラウマ、婚姻状況の変化、社会的孤立とし、リスク要因の発生率とYLLへの影響を厳しい社会的緩和戦略3ヶ月間を想定したモデルに適用した。		
結果： COVID-19のための厳しい社会的緩和戦略により、スイス全体で179,520人（2.09%）、3か月間で1,757,498YLL、一人当たり0.205YLLが予測された。スイス全体の一人当たりYLLに影響するリスク要因は、上から順に、AUD、うつ病、婚姻状況の変化（配偶者）、自殺、社会的孤立、婚姻状況の変化（未成年時）、家庭内暴力による幼少期のトラウマであった。AUDによる影響は、スイス全体で51,000人（0.60%）、3か月間で901,170YLL、一人当たり0.105YLLが予測された。		
結論： 本研究結果は、厳しい社会的緩和戦略がYLLに与える真の影響を過小評価している可能性がある。しかし、戦略のリスクと効果をより良く推定するために、公衆衛生モデルをさらに活用していく必要性を示唆した。		